

1月30日(月) アマービレフィルハーモニー管弦楽団公演

文化庁巡回公演事業として、アマービレフィルハーモニー管弦楽団による公演が行われました。総勢30名程が奏でる楽器の音色を間近で聞くと、音の振動が体に伝わってきて、迫力がありました。演奏だけではなく、弦楽器・木管楽器・金管楽器等、丁寧に楽器の説明をしてくださったり、手拍子や足踏みをしながらリズムを体感したりしました。それに加え、バイオリンの演奏や指揮者体験もさせていただきました。生まれて初めての経験だったという児童が多く、とても新鮮で感動したようです。まさしく体全体で「音を楽しむ」ひと時となりました。



校長独り言

1月18日(水)、子どもたちが給食後に下校した日に、本校で特別支援教育の研究会がありました。県立丸亀養護学校や県立善通寺養護学校の先生にお越しいただき、いろいろな話をお聞きました。私の印象に残ったことを以下に記します。

＜県立丸亀養護学校の先生の話から＞

2022年12月14日の四国新聞に「小中の発達障害8.8% 公立通常学級クラスに3人 文科省調査」という見出しの記事が載っていました。障害は病気ではないため、治るものではありません。障害に対する支援ではなく、障害から引き起こされる困難(行動問題)に対する支援が必要です。適切な支援をすることで、行動問題は軽減します。まず子どもが困っていることは何かを知るために日々の生活場面での行動をよく観察してください。そうすれば、本人にとって必要な支援(活動への見通しをもたせる、視覚的な支援をする、具体的な言葉掛けをする など)が分かります。

発達障害の子どもには頑張ってもできないことがあります。「どうしてできないの?」ではなく「どうすればできるのか?」を意識しましょう。否定的な対応は悪循環を引き起こし自己肯定感を低下させます。できないことを叱責するのではなく、できたことを称賛し、肯定的な対応をしましょう。学習面においても、頑張ってもできないことがあります。例えば「何度書いても漢字を覚えられない。」という子どもが複数人いたとします。でも、漢字を覚えられない理由は人によって異なります。それを知ろうとせずに「とにかく書いて覚える。覚えるまで書く。」では「勉強が嫌になる→子どもの自己肯定感が下がる→学校に行きたくなくなる」という二次障害につながる可能性があります。従って「〇〇さんはなぜ覚えられないのか。」を知ることから始めなければなりません。

＜香川県立善通寺養護学校の先生の話から＞

養護学校には、病弱や肢体不自由など、いろいろな子どもがいますが、体幹がしっかりとしてくると学習効果が高まります。体幹がぶれなくなると体のバランスがとれ、自分の体をコントロールできるようになります。そうすると、徐々に字の乱れが改善され、集中できる時間も増えます。だから、体を動かす機会を多く取り入れています。小学生は体力向上を目的として外で走ったり遊んだりすることが多いと思いますが、とても大事なことです。小さい頃から運動習慣がついていれば、体幹がぶれなくなります。それが、字の乱れの改善だけでなく集中力向上にもつながります。